

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	助教	高柳 伸哉
最終学歴	学 位	専門分野
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 学校教育臨床連合講座博士課程修了	博士 (学術)	臨床心理学・発達心理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

学生の教育では、本学の建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の形成」を基盤に、コンセプトフレーズである「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」を体現するため、学生個々の特徴を把握し、将来をともに考えながら、実現に向けて効果的な教育を実践することを目指す。講義・演習では、2019 年度入学生を対象とした公認心理師カリキュラムの開始も合わせ、心理学の知識・技法の修得を基盤に、心身の健康の増進・問題予防や発達障害の理解・支援、子育て支援といった近年の社会的課題を考察できる力を育てる。教員の立場としては「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事うるの職分なり」を心に据え、教員個人のクレドである「未来の社会づくりにつながる取り組みを行う」を基盤に、研究活動や社会的貢献に関する活動・成果を教育内容にも盛り込むことで、将来の社会づくりに貢献しうる人材の育成に取り組む。

(計画)

上記目標を達成するため、講義においては公認心理師資格カリキュラム対応も含め、子育て支援や発達（障害）特性理解、被害者支援などの社会的課題を加えて再編成する。具体的には、引き続き企業・組織における集団の心理的影響や社会人としてのメンタルヘルス予防の検討、災害時における心理的配慮や支援、多職種との連携など、近年重要な課題とされるテーマを取り入れ、知識と社会的課題とのつなぎから、現実的問題への対処として学生の学修の動機づけを高める。総合演習 I・II では学生同士のコミュニケーション力の向上と他者の尊重・連携体制の構築をテーマに、実践活動を通じた相互援助スキルの獲得を行う。専門演習 I・II では、心理コースの一員として、学生の人間・社会への興味関心を深めるとともに具体的な課題の設定を促し、心理的問題や社会的問題に関して研究を進め発表できる力を促進する。専門演習 III・IV では、個々の学生が研究テーマを深め、研究活動として形にすることを通して研究活動のプロセスを支援し、専門的視点を活用した社会的貢献を行うことができる人材を育成する。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

臨床心理学、障害者心理学、福祉心理学、総合演習 I、専門演習 I、専門演習 III

(後期)

健康・医療心理学、産業・組織心理学、心理検査法、特別支援教育論、総合演習 II、専門演習 II、専門演習 IV、卒業研究

○教育方法の実践

前期では既存科目の実施とともに、特に専門演習 I において心理系教員 3 名によるコース制教育を新しく導入した。具体的には心理コースに所属する学生を担当教員 3 名で分担して担当しつつ、専門的なテーマを扱った発表に向けてポスター作成を共通課題として、心理教員によるオムニバス

形式の講義と、担当学生らへの小グループ指導を組み合わせた授業を実施した。グループによる活動から、学生個々の取り組みや負担の偏重という課題がみられた一方、各自の特徴を踏まえた役割分担と積極的なグループワークがうかがえる成果もみられた。後期では「専門演習 II」において、学会での口頭発表を模した課題作成に向け、同様の形式で心理コースの運営を行った結果、心理学統計など他の授業での学習内容を活用するなど、前期以上に学生の積極的な活動がみられた。また、公認心理師対応カリキュラムの新規科目である「健康・医療心理学」と「産業・組織心理学」では、従来の心理的支援に必要な知識に加え、メンタルヘルスや発達特性などの生物学的背景の要因、依存・嗜癖等の環境との相互作用による問題、労働におけるセルフケアと職場環境の改善など、昨今の社会的課題を反映させた内容を盛り込み、考察問題などを設定することで学生に自身の生活や社会との関わりでの体験とつなげるよう、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を実施した。授業での考察問題・感想等からうかがえる成果として、アルバイトにおける環境的問題やスタッフ同士の相互サポートの効果、家族の飲酒・喫煙問題への対応検討など、知識の獲得だけでなく、学生自身が考えを深めている様子もうかがえた。

○作成した教科書・教材

既存の授業においては配布資料の再編成やバージョンアップを行った。また、「専門演習 I・II」ではポスターと口頭発表資料作成に向けた論文作成ポイントやパソコンの操作方法マニュアルなどを新規に作成した。「専門演習 III・IV」では、論文作成におけるより具体的なポイント提示の資料を作成し、ゼミ論文完成のサポートを行った。新規の講義科目である「健康・医療心理学」と「産業・組織心理学」においては、新規にパワーポイントを用いた提示資料（1回あたり概ねスライド20～30枚）と配布用資料（A3用紙両面印刷1枚）を作成した。

○自己評価

「専門演習 I・II」運営におけるコース制という新しい取り組みへの対応は、他の心理教員からの助力もあり、学生らの取り組みも含めて想定以上の成果が得られたと思われる。また、今後の基本体制となりうる枠組みを作ることもつながった。「専門演習 III・IV」に関しては主に学生の個別対応が中心であったため省略したが、こちらも様々な課題が残ったものの、学生各自の興味関心を踏まえたゼミ論文は当初の想定以上の興味深い内容となったと考えている。

講義に関しては主に新規科目について抜粋すると、これまでの専門領域に関連する「健康・医療心理学」は一般学生対象と考えるとやや高度な内容であったものの、依存・嗜癖や災害時の支援など昨今関心が高いテーマも多く、学生の反応や関心も肯定的であったと思われる。一方、「産業・組織心理学」に関しては、以前産業カウンセラーの資格を有していたことや職場支援等に関わっていた経験はあるものの、本来の専門分野ではないこともあり具体的な内容や事例の紹介などについてはリアリティが薄いことから、学生の反応や取り組みについても比較的手応えがなく、授業評価からも若干低い結果が出されているため、課題が残った。しかしながら、既存科目を含めると保健医療、福祉、教育、そして産業分野と5領域のうち4領域という広い範囲を担当していることから、内容的な課題は残るものの、公認心理師カリキュラム対応において十分な役割を果たしていると考えている。当然ながら改善の余地は多分にあること、また新カリキュラム対応科目が今後も増えていくことから、今後もさらなる授業改善・スキルアップを目指していきたい。

II 研究活動

○研究課題

地域と連携した発達特性を踏まえた強みの探索的検証と心の健康、社会適応との関連の検証

○目標・計画

(目標)

これまで取り組んできた発達障害児者に関する研究と地域行政等との連携を発展させる。H30年度科研費補助金の基盤研究(C)に採択された研究課題を中心に、他大学の研究者らとの研究ネットワークを活用し、子育て支援からライフ・プランニング、生活困窮者支援まで人生の様々な段階において必要な心理的支援に関して探求する。これらの研究活動・知見から、個人クレドでもある未来の社会づくりに資する取り組みの達成を目指す。また、研究知見の学術論文化を進め、筆頭著者としての論文採択を目指す。

(計画)

科研費に採択された研究課題の遂行を中心に、引き続き研究活動や地域への支援活動を行う。また、他大学の研究者らとともに、発達障害や福祉行政に関する複数の研究プロジェクトに参画する。得られた知見に関して共同研究者らとの相談を基に、効率的な論文化や地域における講演、教育活動などに反映し、社会への情報発信による貢献を行う。地域行政との連携に関しては、愛知県A市との連携の中心的役割を担うことになっており、地域への貢献に加え、知見の普及やツール作成による全国展開など成果の発展につなげていく。

○2012年4月から2020年3月の研究業績(特許等を含む)

(著書)

- ・辻井正次・伊藤大幸・浜田 恵・村山恭朗・高柳伸哉(他26名) 肯定的・否定的養育行動尺度マニュアル, 総40p, 2018年, 金子書房, 監修:辻井正次
- ・辻井正次・伊藤大幸・浜田 恵・村山恭朗・高柳伸哉(他27名) 保育・指導要録のための発達評価シート(TASP)解説書・記録用紙, 総33p, 2017年, スペクトラム出版社, 監修:辻井正次
- ・高柳伸哉 不登校・学校での不適応の背景として 必携発達障害支援ハンドブック, 総560p, pp.54-58, 2016年, 金剛出版, 編著:下山晴彦・村瀬嘉代子・森岡正芳 ISBN:978-4-7724-1503-3
- ・高柳伸哉 子どもの怒りのコントロールをどうするか 最新子どものこころの医学, 総277p, pp.234-243, 2014年, 金芳堂, 編集者:中村和彦 ISBN:978-4-7653-1609-5
- ・高柳伸哉 子どものトラウマについてどのように対応していけばよいのか, 家族・保護者を含めたサポート 子どものPTSD—診断と治療—, 総307p, pp.275-281, 2014年, 診断と治療社, 編集者:友田明美・杉山登志郎・谷池雅子 ISBN:978-4-7878-2102-7
- ・高柳伸哉 発達障害のアセスメント事例:事例5 就学前健診が絡んだ発達障害児のケース 発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン, 総440p, pp.341-347, 2014年, 金子書房, 監修者:辻井正次, 編集者:明翫光宜・松本かおり・染木史緒・伊藤大幸 ISBN:978-4-7608-3257-6

(学術論文)

<査読有>

- ・Satomi Yoshida, Masaki Adachi, Michio Takahashi, Nobuya Takayanagi, Sayura Yasuda, Hirokazu Osada, Kazuhiko Nakamura. The factor structure and construct validity of the parent-reported Inventory of Callous-Unemotional Traits among school-aged children and adolescents, PLOS ONE 14(8): e0221046, 2019年
- ・村山恭朗・伊藤大幸・中島俊思・浜田 恵・片桐正敏・田中善大・高柳伸哉・野田 航・辻井正次 一般小中学生におけるいじめ経験と養育行動の関連に関する横断的検証, 日本健康心理学研究, 第31巻, 31-41, 2018年

- Masaki Adachi, Michio Takahashi, Nobuya Takayanagi, Satomi Yoshida, Sayura Yasuda, Masanori Tanaka, Ayako Osato-Kaneda, Manabu Saito, Michito Kuribayashi, Kazuhiko Nakamura Adaptation of the Autism Spectrum Screening Questionnaire (ASSQ) to preschool children, PLOS ONE 13(8): e0203254, 2018 年
- 浜田恵・野村和代・伊藤大幸・村山恭朗・高柳伸哉・明翫光宜・辻井正次 ペアレント・プログラムによる保護者支援と支援者研修の効果, 小児の精神と神経, 第 57 巻, 313-321, 2018 年
- 伊藤大幸・浜田恵・村山恭朗・高柳伸哉・野村和代・明翫光宜・辻井正次 クラスサイズと学業成績および情緒的・行動的問題の因果関係——自然実験デザインとマルチレベルモデルによる検証——, 教育心理学研究, 第 65 巻, 451-465, 2017 年
- Michio Takahashi, Masaki Adachi, Nobuya Takayanagi, Sayura Yasuda, Masanori Tanaka, Ayako Osato-Kaneda, Takahito Masuda, Akio Nakai, Manabu Saito, Michito Kuribayashi, Kazuhiko Nakamura Coordination difficulties in preschool-aged children are associated with maternal parenting stress: A community-based cross-sectional study, Research in Developmental Disabilities, 70, 11-21, 2017 年
- 村山恭朗・伊藤大幸・高柳伸哉・上宮愛・中島俊思・片桐正敏・浜田恵・明翫光宜・辻井正次 小学校高学年児童および中学生における情動調整方略と抑うつ・攻撃性との関連, 教育心理学研究, 第 65 巻, 64-76, 2017 年
- 村山恭朗・伊藤大幸・片桐正敏・中島俊思・浜田恵・高柳伸哉・上宮愛・明翫光宜・辻井正次 小学高学年および中学生における反応スタイルの調整効果とストレス生成効果 健康心理学研究第 29 巻, 1-11, 2017 年
- 村山恭朗・伊藤大幸・大嶽さとこ・片桐正敏・浜田恵・中島俊思・上宮愛・野村和代・高柳伸哉・明翫明宜・辻井正次 小中学生におけるメンタルヘルスに対するソーシャルサポートの横断的効果 発達心理学研究第 27 巻, 395-407, 2016 年
- 足立匡基・高柳伸哉・吉田恵心・安田小響・大里絢子・田中勝則・増田貴人・栗林理人・斉藤まなぶ・中村和彦 ASSQ 短縮版の 5 歳児適用における妥当性 児童青年精神医学とその近接領域第 57 巻, 603-617, 2016 年
- Satomi Yoshida, Nobuya Takayanagi, Masaki Adachi, Sayura Yasuda, Kazuhiko Nakamura Comprehensive review of current findings of callous and unemotional traits. 弘前医学第 67 巻, 1-12, 2016 年
- 野田航・伊藤大幸・浜田恵・上宮愛・片桐正敏・高柳伸哉・中島俊思・村山恭朗・明翫光宜・辻井正次 小・中学生の攻撃性はどの程度安定しているか: 潜在特性-状態モデルを用いたコホートデータの多母集団同時分析 発達心理学研究第 27 巻, 158-166, 2016 年
- 浜田恵・伊藤大幸・片桐正敏・上宮愛・中島俊思・高柳伸哉・村山恭朗・明翫光宜・辻井正次 小中学生における性別違和感と抑うつ・攻撃性の関連 発達心理学研究第 27 巻, 137-147, 2016 年
- 伊藤大幸・村山恭朗・片桐正敏・中島俊思・浜田恵・田中善大・野田航・高柳伸哉・辻井正次 一般小中学生における食行動異常の実態とメンタルヘルスおよび社会的不適応との関連 教育心理学研究第 64 巻, 170-183, 2016 年
- Nobuya Takayanagi, Satomi Yoshida, Sayura Yasuda, Masaki Adachi, Ayako Kaneda-Osato, Masanori Tanaka, Takahito Masuda, Michito Kuribayashi, Manabu Saito, Kazuhiko Nakamura Psychometric properties of the Japanese ADHD-RS in preschool children. Research in Developmental Disabilities, 55, 268-278, 2016 年
- 浜田恵・伊藤大幸・田中善大・高柳伸哉・片桐正敏・中島俊思・村山恭朗・野田航・辻井正次 一

般小中学生における日常生活習慣と抑うつ傾向の関連 小児の精神と神経第 56 巻, 47-56, 2016 年

- ・伊藤大幸・野田航・中島俊思・田中善大・浜田恵・片桐正敏・高柳伸哉・村山恭朗・辻井正次 保育士の発達評価に基づく就学後の心理社会的不適応の縦断的予測：保育要録用発達評価尺度の開発 発達心理学研究第 27 巻, 59-71, 2016 年
- ・片桐正敏・伊藤大幸・上宮愛・浜田恵・村山恭朗・中島俊思・高柳伸哉・明翫光宜・辻井正次 低学年児童の書字能力と抑うつ, 攻撃性との関係 LD 研究第 25 巻, 49-58, 2016 年
- ・田中善大・伊藤大幸・村山恭朗・野田航・中島俊思・浜田恵・片桐正敏・高柳伸哉・辻井正次 保育所及び小中学校における ASD 傾向及び ADHD 傾向といじめ被害及び加害との関連 発達心理学研究第 26 巻, 332-343, 2015 年
- ・片桐正敏・伊藤大幸・中島俊思・田中善大・野田航・浜田恵・村山恭朗・高柳伸哉・辻井正次 一般児童生徒の強迫傾向が後の抑うつ, 攻撃性を予測するか—単一市内コホート調査に基づく縦断的検討— 小児の精神と神経第 55 巻, 117-126, 2015 年
- ・村山恭朗・伊藤大幸・浜田恵・中島俊思・野田航・片桐正敏・高柳伸哉・田中善大・辻井正次 いじめ加害・被害と内在化/外在化問題との関連性 発達心理学研究第 26 巻, 13-22, 2015 年
- ・中島俊思・大西将史・伊藤大幸・高柳伸哉・野田航・原田新・田中善大・望月直人・大嶽さと子・辻井正次 就学前の保育園生活における低出生体重児の発達の特徴：保育記録による発達尺度 (NDSC) の横断データによる検討 小児の精神と神経第 54 巻, 345-355, 2015 年
- ・村山恭朗・伊藤大幸・高柳伸哉・松本かおり・田中善大・野田航・望月直人・中島俊思・辻井正次 小学高学年・中学生用反応スタイル尺度の開発 発達心理学研究第 25 巻, 477-488, 2014 年
- ・大嶽さと子・伊藤大幸・野田航・中島俊思・望月直人・大西将史・高柳伸哉・辻井正次 遊び・余暇活動と子どもの精神的健康との関連 小児の精神と神経第 54 巻, 209-219, 2014 年
- ・伊藤大幸・中島俊思・望月直人・高柳伸哉・田中善大・松本かおり・大嶽さと子・原田新・野田航・辻井正次 肯定的・否定的養育行動尺度の開発：因子構造および構成概念妥当性の検証 発達心理学研究第 25 巻, 221-231, 2014 年
- ・伊藤大幸・田中善大・村山恭朗・中島俊思・高柳伸哉・野田航・望月直人・松本かおり・辻井正次 小中学生用社会的不適応尺度の開発と構成概念妥当性の検証 精神医学第 56 巻, 699-708, 2014 年
- ・伊藤大幸・松本かおり・高柳伸哉・原田新・大嶽さと子・望月直人・中島俊思・野田航・田中善大・辻井正次 ASSQ 日本語版の心理測定学的特性の検証と短縮版の開発 心理学研究第 85 巻, 304-312, 2014 年
- ・田中善大・伊藤大幸・野田航・高柳伸哉・原田新・望月直人・大嶽さと子・辻井正次 保育記録による発達尺度改訂版 (NDSC-R) を用いた就学後の適応及び不適応の予測 保育学研究第 52 巻, 80-89, 2014 年
- ・田中善大・伊藤大幸・高柳伸哉・原田新・野田航・大嶽さと子・中島俊思・望月直人・辻井正次 小中学校における友人関係問題に対する ASD 傾向及び ADHD 傾向の影響の検討 精神医学第 56 巻, 501-510, 2014 年
- ・原田新・伊藤大幸・望月直人・中島俊思・野田航・染木史緒・高柳伸哉・田中善大・大嶽さと子・辻井正次 日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 教師評定フォームの構成概念的妥当性 小児の精神と神経第 54 巻, 17-28, 2014 年
- ・田中善大・伊藤大幸・高柳伸哉・原田新・染木史緒・野田航・大嶽さと子・中島俊思・望月直人・辻井正次 保育記録による発達尺度 (NDSC) を用いた学校適応の予測：保育所年長時から小学 1

年時までの縦断調査を通して 発達心理学研究第 25 巻, 58-66, 2014 年

- ・望月直人・伊藤大幸・原田新・野田航・松本かおり・高柳伸哉・中島俊思・大嶽さと子・田中善大・辻井正次 中学生の非行行為と攻撃性, 抑うつとの関連 精神医学第 56 巻, 4-11, 2014 年
- ・原田新・伊藤大幸・望月直人・田中善大・大嶽さと子・高柳伸哉・中島俊思・野田航・染木史緒・辻井正次 日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 自己評定フォームの構成概念的妥当性: 抑うつ, 攻撃性, 親評定フォームとの関連から 小児の精神と神経第 53 巻, 343-351, 2014 年
- ・高柳伸哉・伊藤大幸・田中善大・原田新・大嶽さと子・望月直人・染木史緒・野田航・中島俊思・辻井正次 小中学生における欠席行動と保護者評定による行動的・情緒的問題との関連 臨床精神医学第 42 巻, 1563-1572, 2013 年
- ・Wataru Noda, Hiroyuki Ito, Chikako Fujita, Masafumi Ohnishi, Nobuya Takayanagi, Fumio Someki, Syunji Nakajima, Satoko Ohtake, Naoto Mochizuki, Masatsugu Tsujii Examining the relationships between attention deficit/hyperactivity disorder and developmental coordination disorder symptoms, and writing performance in Japanese second grade students. Research in developmental disabilities. 34: 2909-2916. 2013 年
- ・伊藤大幸・田中善大・高柳伸哉・大嶽さと子・原田新・中島俊思・野田航・染木史緒・望月直人・辻井正次 保育記録による発達尺度改訂版 (NDSC-R) の標準化: 月齢区分ごとの標準値およびカットオフ値の検討 精神医学第 55 巻, 549-560, 2013 年
- ・伊藤大幸・望月直人・中島俊思・瀬野由衣・藤田知加子・高柳伸哉・大西将史・大嶽さと子・岡田涼・辻井正次 保育記録による発達尺度 (NDSC) の構成概念妥当性: 尺度構造の検討と月齢および不適応問題との関連 発達心理学研究第 24 巻, 211-220, 2013 年
- ・高柳伸哉・伊藤大幸・野田航・田中善大・大嶽さと子・染木史緒・原田新・中島俊思・望月直人・辻井正次 小中学生における欠席行動と教師評定による学校適応との関連 精神医学第 55 巻, 355-362, 2013 年
- ・中島俊思・大西将史・伊藤大幸・野田航・望月直人・高柳伸哉・染木史緒・大嶽さと子・瀬野由衣・林陽子・辻井正次 3歳児健診における保健師による PARS 短縮版活用の可能性と課題 小児の精神と神経第 53 巻, 47-57, 2013 年
- ・伊藤大幸・田中善大・高柳伸哉・望月直人・染木史緒・野田航・大嶽さと子・中島俊思・原田新・辻井正次 保育記録による発達尺度改訂版 (NDSC-R) の開発: 信頼性および妥当性の比較 精神医学第 55 巻, 263-272, 2013 年
- ・野田航・伊藤大幸・中島俊思・大嶽さと子・高柳伸哉・染木史緒・原田新・望月直人・田中善大・辻井正次 小中学生を対象とした日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 教師評定フォームの標準化と心理測定学的特徴の検討: 単一市内全校調査を用いて 臨床精神医学第 42 巻, 247-255, 2013 年
- ・野田航・伊藤大幸・原田新・中島俊思・高柳伸哉・染木史緒・田中善大・大嶽さと子・望月直人・辻井正次 日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 自己評定フォームの信頼性・妥当性の検討: 単一市内全校調査を用いて 臨床精神医学第 42 巻, 119-127, 2013 年
- ・中島俊思・伊藤大幸・大西将史・高柳伸哉・大嶽さと子・染木史緒・望月直人・野田航・林陽子・瀬野由衣・辻井正次 3歳児健診における広汎性発達障害児早期発見のためのスクリーニングツール PARS 短縮版導入の試み 精神医学第 54 巻, 911-914, 2012 年
- ・高柳伸哉・伊藤大幸・大嶽さと子・野田航・大西将史・中島俊思・望月直人・染木史緒・辻井正次 小中学生における欠席行動と抑うつ, 攻撃性との関連 臨床精神医学第 41 巻 (7), 925-932,

2012年

- ・大嶽さと子・伊藤大幸・染木史緒・野田航・林陽子・中島俊思・高柳伸哉・瀬野由衣・岡田涼・辻井正次 一般中学生における自傷行為の経験および頻度と抑うつとの関連：単一市内全校調査に基づく検討 精神医学第54巻, 673-680, 2012年
- ・野田航・伊藤大幸・藤田知加子・中島俊思・瀬野由衣・岡田涼・林陽子・谷伊織・高柳伸哉・辻井正次 日本語版 Strengths and Difficulties Questionnaire 親評定フォームについての再検討 一単一市内前項調査に基づく学年・性別の標準得点とカットオフ値の算出— 精神医学第54巻, 383-391, 2012年4月

<査読なし>

- ・野田航・高柳伸哉・望月直人・中島俊思 発達障害者支援における認知行動療法 愛知県知的障害者福祉協会研究紀要第17巻, 36-49, 2012年
- ・辻井正次・望月直人・中島俊思・高柳伸哉・野田航・野村和代・大嶽さと子・伊藤大幸 福島県の学校における子どものこころの支援(1) — “こころの教育”プログラムの実践— 中京大学現代社会学部紀要第6巻, 137-145, 2012年

(学会発表)

<国際学会発表>

- ・Masaki Adachi, Nobuya Takayanagi, Michio Takahashi, Sayura Yasuda, Satomi Yoshida, Tamaki Mikami, Akio Nakai, Manabu Saito, Kazuhiko Nakamura Behavioral problems in preschool children with Developmental Coordination Disorder, 12th International Conference for Developmental Coordination Disorder, Perth in Australia, 2017年
- ・Tamaki Mikami, Manabu Saito, Takahito Masuda, Masanori Tanaka, Ayako Osato-Kaneda, Yui Sakamoto, Satomi Yoshida, Nobuya Takayanagi, Masaki Adachi, Sayura Yasuda, Michio Kuribayashi, Kazuhiko Nakamura The parental and teacher's recognition for Developmental Coordination Disorder in preschool-aged children, 12th International Conference for Developmental Coordination Disorder, Perth in Australia, 2017年
- ・Manabu Saito, Ayako Osato-Kaneda, Masanori Tanaka, Takahito Masuda, Satomi Yoshida, Yui Sakamoto, Yuri Matsubara, Nobuya Takayanagi, Masaki Adachi, Michio Takahashi, Sayura Yasuda, Michio Kuribayashi, Akio Nakai, Motohide Miyahara, Kazuhiko Nakamura Prevalence and comorbidities of DCD Using DSM-5, comparison of motor and cognitive functions at preschool age in a Japanese community, 12th International Conference for Developmental Coordination Disorder, Perth in Australia, 2017年
- ・Masanori Tanaka, Manabu Saito, Ayako Kaneda-Osato, Takahito Masuda, Nobuya Takayanagi, Michio Takahashi, Masaki Adachi, Sayura Yasuda, Satomi Yoshida, Michio Kuribayashi, Akio Nakai, Motohide Miyahara, Kazuhiko Nakamura, Yui Sakamoto Evaluation of factor structure equivalence of the Developmental Coordination Disorder Questionnaire across genders in Japanese preschool children: HFC study, 12th International Conference for Developmental Coordination Disorder, Perth in Australia, 2017年
- ・Michio Takahashi, Masaki Adachi, Nobuya Takayanagi, Sayura Yasuda, Ayako Osato-Kaneda, Tamaki Mikami, Akio Nakai, Manabu Saito, Michio Kuribayashi, Kazuhiko Nakamura Developmental Coordination Disorder trait in Japanese preschoolers impact on parenting stress, 12th International Conference for Developmental Coordination Disorder, Perth in Australia, 2017年

- Manabu Saito, Masaki Adachi, Satomi Yoshida, Sayura Yasuda, Michito Kuribayashi, Yui Sakamoto, Kazuhiko Nakamura, Nobuya Takayanagi Gaze Abnormality Can Distinguish Between Autism Spectrum Disorder and Typically Developing Children through Screening in 5-Year-Old Children By a Double Blind Study in a Japanese Community Based Population, International Meeting for Autism Research, San Francisco in USA, 2017年(査読有)
- Yui Sakamoto, Manabu Saito, Satomi Yoshida, Masaki Adachi, Nobuya Takayanagi, Sayura Yasuda, Michito Kuribayashi, Kazuhiko Nakamura Prevalence and Comorbidities of Autism Spectrum Disorder and Study of the Developmental Health Checkup in a Japanese Community-Based Population Sample of Five-Year-Old Children, International Meeting for Autism Research, San Francisco in USA, 2017年(査読有)
- Masaki Adachi, Nobuya Takayanagi, Satomi Yoshida, Sayura Yasuda, Ayako Kaneda-Osato, Masanori Tanaka, Takahito Masuda, Michito Kuribayashi, Manabu Saito, & Kazuhiko Nakamura Applicability of the Autism Spectrum Screening Questionnaire Parent Form to 5-year-old children. International Meeting for Autism Research, Baltimore, USA, 2016年(査読有)
- Nobuya Takayanagi, Masaki Adachi, Sayura Yasuda, Satomi Yoshida, Michito Kuribayashi, Kazuhiko Nakamura Risk and protective factors of depression in children with ASD tendency in Japan. International Meeting for Autism Research, Baltimore, USA, 2016年(査読有)
- Yui Sakamoto, Manabu Saito, Ayako Kaneda-Osato, Masanori Tanaka, Takahito Masuda, Nobuya Takayanagi, Sayura Yasuda, Kazuhiko Nakamura Epidemiology of Autism Spectrum Disorder and Attention Deficit Hyperactivity Disorder in a community-based population sample of five-year-olds Children. 16th International ESCAP Congress, Madrid, Spain, 2015年
- Nobuya Takayanagi, Hiroyuki Ito, Yoshihiro Tanaka, Shin Harada, & Masatsugu Tsujii A relation between autism spectrum, school absenteeism and behavioral and emotional problems of elementary and middle school students. International Congress Autism Europe 10, Budapest, Hungary, 2013年
- Nobuya Takayanagi, Syunji Nakajima, Naoto Mochizuki, Masafumi Ohnishi, Kazuyo Nomura, Wataru Noda, Hiroyuki Ito, Toshiro Sugiyama, & Masatsugu Tsujii The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facilities in Japan (4): An examination of factor index and subscale scores pattern of IQ. 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, London, UK, 2012年
- Masafumi Ohnishi, Naoto Mochizuki, Syunji Nakajima, Nobuya Takayanagi, Kazuyo Nomura, Wataru Noda, Hiroyuki Ito, Toshiro Sugiyama, & Masatsugu Tsujii The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facilities in Japan (3): The examination of the IQ profile. 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, London, UK, 2012年
- Syunji Nakajima, Hiroyuki Ito, Masafumi Ohnishi, Naoto Mochizuki, Wataru Noda, Kazuyo Nomura, Nobuya Takayanagi, Toshiro Sugiyama, & Masatsugu Tsujii The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facilities in Japan (2): PDD and ADHD tendency. 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, London, UK, 2012年
- Naoto Mochizuki, Masafumi Ohnishi, Syunji Nakajima, Nobuya Takayanagi, Wataru Noda,

Kazuyo Nomura, Hiroyuki Ito, Toshiro Sugiyama, & Masatsugu Tsujii The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facilities in Japan (1): The examination of the psychiatric disorders and childhood adversities. 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, London, UK, 2012年

- Wataru Noda, Iori Tani, Ryo Okada, Hiroyuki Ito, Nobuya Takayanagi, & Masatsugu Tsujii Comparison of the motor coordination among Japanese children and early adolescents with/without PDD using the Japanese version of the Developmental Coordination Disorder Questionnaire. Asia Pacific Autism Conference, Perth, Australia, 2011年
- Nobuya Takayanagi, Iori Tani, Ryo Okada, Hiroyuki Ito, Wataru Noda, & Masatsugu Tsujii Relationship between the motor coordination and difficulty of adaptation in Japanese children with PDD using the Japanese version Developmental Coordination Disorder Questionnaire. Asia Pacific Autism Conference, Perth, Australia, 2011年

<国内学会発表>

- 高柳伸哉・伊藤大幸・浜田 恵・村山恭朗 小中学生の自傷行為と内在化問題, 対人関係問題との関連 (児童・青年の発達とメンタルヘルスに関する大規模縦断研究において) 日本教育心理学会第61回総会, JD08, 東京, 2019年
- 吉田恵心・高柳伸哉・足立匡基・安田小響・大里絢子・斉藤まなぶ・栗林理人・中村和彦 発達特性傾向、ストレス要因と攻撃性の関連について 日本児童青年精神医学会第56回大会, 015-5, 横浜, 2015年
- 高柳伸哉・足立匡基・安田小響・吉田恵心・大里絢子・斉藤まなぶ・栗林理人・中村和彦 小中学生における発達特性と抑うつ、不適応の関連 日本児童青年精神医学会第56回大会, 015-1, 横浜, 2015年
- 伊藤大幸・高柳伸哉・野田航・田中善大 小中学生の発達とメンタルヘルスに関する縦断コホート研究(2)一思春期の問題行動の予測と因果的メカニズムの探索一 日本発達心理学会第25回大会, SS5-5, 京都, 2014年
- 原田新・高柳伸哉・望月直人・辻井正次 単一市内の大規模調査から見えた, 子どものメンタルヘルスとその支援③ 一学校臨床支援に必要なアセスメント:SDQの三者評定の有用性一 日本心理臨床学会第32回秋季大会, SB3-04-3, 横浜, 2013年
- 高柳伸哉・原田新・望月直人・辻井正次 単一市内の大規模調査から見えた, 子どものメンタルヘルスとその支援②一児童生徒の不登校(欠席日数)とメンタルヘルス, 保護者からみた適応との関連一 日本心理臨床学会第32回秋季大会, SB3-04-2, 横浜, 2013年
- 望月直人・原田新・高柳伸哉・辻井正次 単一市内の大規模調査からみえた, 子どものメンタルヘルスとその支援①一中学生の非行行為と抑うつ・攻撃性との関連一 日本心理臨床学会第32回秋季大会, SB3-04-1, 横浜, 2013年
- 高柳伸哉・望月直人・辻井正次 民間NPO法人におけるHF-ASD児者の実態把握調査と実証的介入プログラムの試み②~中期介入プログラム, 怒りのコントロールプログラムの紹介~ 日本心理臨床学会第31回秋季大会, B-3-18, 愛知, 2012年

(特許)

なし

(その他)

- 辻井正次・伊藤大幸・高柳伸哉・村山恭朗・明翫光宣 平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「無料低額宿泊所等において日常生活上の支援を受ける必要がある利用者の支援ニーズ評定に

関する調査研究事業」 中京大学現代社会学部辻井正次研究室, 総 69p, 2019 年

- ・村山恭朗・高柳伸哉・浜田 恵 TASP の臨床的活用法, アスペハート, 48: 40-49, 2018 年
- ・高柳伸哉 第 5 章 5-2 就学時健診 効果的な巡回相談支援のための基本と実践, 総 56p, pp. 21-23, 2018 年, アスペ・エルデの会, 編著: 辻井正次・浜田 恵, 平成 29 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業
- ・高柳伸哉 第 6 章 6-4 効果的な子ども支援のためのカテゴリー別アプローチ③個別の療育を行う (発達障害者支援センター、医療機関など) 効果的な巡回相談支援のための基本と実践, 総 56p, pp. 33-36, 2018 年, アスペ・エルデの会, 編著: 辻井正次・浜田 恵, 平成 29 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業
- ・高柳伸哉 第 3 章巡回相談支援の活用 巡回相談支援活用マニュアル, 総 15p, pp. 6-12, 2018 年, アスペ・エルデの会, 編著: 辻井正次・浜田 恵, 平成 29 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業
- ・高柳伸哉 第 3 章 2 節 臨床心理学的プロフィール検討 無料低額宿泊所等を利用する被保護者等の利用者の状態像を明らかにするための調査研究, 総 98p, pp. 39-56, 2018 年, 中京大学現代社会学部辻井正次研究室, 編著: 辻井正次・明翫光宜, 平成 29 年度厚生労働省社会福祉推進事業
- ・高柳伸哉 特別企画「整理整頓アンケート調査」 アスペハート第 44 巻, 22-31, 2016 年
- ・高柳伸哉 ADHD のスクリーニングと診断・評価—CAARS/CAADID 臨床心理学 第 16 巻, 33-37, 2016 年 ISBN: 978-7724-1470-8
- ・高柳伸哉 発達障害のある不登校の子どもへの心理療法 アスペハート第 38 巻, 26-31, 2014 年 ISBN: 978-4-904809-15-0
- ・高柳伸哉 成人の ADHD, その特徴 こころの科学増刊 DSM-5 対応 神経発達障害のすべて, 80-84, 2014 年 ISBN: 978-4-535904-31-6
- ・田中善大・高柳伸哉・野田航 発達障害のパニックに関する研究の展望 —パニックに対する支援方法を中心に アスペハート第 35 巻, 48-53, 2013 年 ISBN: 978-4-904809-12-9
- ・野田航・高柳伸哉・中島俊思・望月直人 成人期以降の支援の実際 臨床心理学 第 13 巻, 523-528, 2013 年 ISBN: 978-4-772413-25-1
- ・辻井正次・望月直人・高柳伸哉 子育て支援として, 地域で保育士がペアレントトレーニングを実施する 月刊地域保健, 第 44 巻, 42-48, 2013 年

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

- ・中村和彦・清水栄司・和久田学・辻井正次・齊藤卓弥・榎屋二郎・足立匡基 日本医療研究開発機構 (AMED) 成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY 課題管理番号: 20gk0110036h0003 「学童・思春期のこころの客観的指標と連携システムの開発」 2018 年 10 月～2022 年 3 月 (予定) (高柳伸哉 →2019 年 4 月より愛知コホートの研究開発参加者として参画)
- ・辻井正次・井上雅彦・岩永竜一郎・加賀佳美・黒田美保・笹森洋樹・鈴木勝昭・高柳伸哉・西牧謙吾・浜田 恵・日詰正文・三上珠希・明翫光宜・吉村優子 厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業) 採択番号: 19189603 「国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による発達障害児者支援の効果的な研修の開発」 2019 年 4 月～2021 年 3 月 (予定)
- ・高柳伸哉 科学研究費補助金 基盤 (C) 課題 ID: 18K03158 「発達障害児者における強みの探索的研究と精神的健康・社会適応との関連の検証」 2018 年 4 月～2021 年 3 月 (予定) 日本学術振興会
- ・高柳伸哉 科学研究費補助金 若手 (B) 課題 ID: 17848247 「発達障害児のきょうだいにおけ

る心理的影響の質的・量的検証の試み」 2016年応募 不採択

- ・ 齊藤まなぶ・高柳伸哉・足立匡基・尾崎拓・中村和彦・大里絢子 科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号:16807666「5歳児における発達障害の診断手法の開発と疫学研究」 2016年4月～2017年3月(研究分担者として1年間参画) 日本学術振興会
- ・ 森則夫・大隅香苗・高貝就・土屋賢治・高柳伸哉・野田航・伊藤大幸 科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号:14468047「小中学校教員のメンタルヘルスについての現況調査と支援プログラムの構築」 2014年4月～2015年3月(研究分担者として1年間参画) 日本学術振興会
- ・ 高柳伸哉 科学研究費補助金 若手研究(B) 課題番号:26780383「自閉症スペクトラム児の適応を促進するプロテクティブ要因の検証と支援授業の開発」 2014年4月～2017年3月 日本学術振興会
- ・ 高柳伸哉 科学研究費補助金 研究活動スタート支援 課題番号:24830039「自閉症スペクトラム児の精神的健康と適応に関連するプロテクティブ要因の縦断的検討」 2012年9月～2014年3月 日本学術振興会

○所属学会

日本健康心理学会、日本教育心理学会、日本心理臨床学会、日本認知療法学会、日本小児精神神経学会、日本発達心理学会

○自己評価

研究活動に関しては、分担研究者として参画している中京大学主幹の厚労科研1件が採択されたことや、その他の厚労科研とAMEDに採択された研究等3件に研究協力者として参画することとなった。様々なプロジェクトに関わる機会が得られた一方、当初の予定とは異なる動きとなることも多かった。しかしながら、いずれのプロジェクトも発達障害理解や支援体制構築の基礎となるものであり、医療・福祉・教育等の各分野における先生方との取り組みを通じた知見の獲得や、研究課題の中心的テーマとしている発達特性の強みの検証と社会適応の促進への発展が期待される。

研究成果の公開については、研究協力者らと合同で教育心理学会における自主シンポジウムを行った。その他、共著者として国際学会誌に論文が1件採択された。上記の研究活動も含め、発表するためのデータが膨大に蓄積されているため、研究活動を継続しつつ論文採択など成果の公表につながる取り組みの比率を上げていくことが課題となっている。

また、地域と連携した研究活動として、愛知県A市における子育て支援プログラム普及と効果検証を進めている。本活動は子育て支援だけでなく小学校以降の教育現場における発達支援も含めた切れ目ない支援を達成するための一環として実施されているもので、研究と地域支援を両立した取り組みとして次年度も継続している予定である。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

研究活動委員として、本学における研究活動の推進と支援に携わる。人権問題相談員として、「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトフレーズの下に、当事者相互の尊重と共存を基盤とした対応を実践する。

(計画)

研究活動が教育の充実にもつながることや、近年の研究における倫理的な課題への対応を踏まえ、本学における効果的な研究活動の推進を目指す。また、人権問題に関して相談を受けた場合には、個々のケースに応じた尊重を基本に課題の改善と相互の調整を目指した検討・提言を行う。

○学内委員等

研究活動委員会委員、入試問題作成委員会委員、人権問題相談員、人間健康学部総合演習 WG、オープンキャンパス模擬授業講師、高大連携授業講師

○自己評価

研究活動委員会においては、東邦学誌に投稿された論文の校閲や研究倫理委員会における倫理審査、倫理審査申請フォーマット改訂での提案などを行った。昨今の競争的資金獲得推進の流れを反映し、東邦学誌においてもさらなる論文の質向上や、専門領域・学会ごとに異なる論文構成や様式をどのように統制できるかという課題について検討した。倫理審査におけるフォーマット改訂においては、従来の形式よりも具体的に必要な事項の作成を促す様式にすることができ、申請者・審査者の双方にとって有用な形に近づいたのではないかと思われる。入試問題作成委員会や人権問題相談員、人間健康学部総合演習 WG においては、それぞれに必要な業務に取り組んだ。

また、公認心理師カリキュラムの対応においては、病院実習先の開拓に取り組んだ。主に看護系のネットワークを有しておられる同学部の渡辺教授に近隣の病院をご紹介いただきながら、実習受け入れ可能性のある病院に直接ご挨拶とご提案のため訪問する取り組みを行った。2019 年度末段階では契約までには至っていないが、先方の担当者からは色よい返事をいただいている。病院実習は公認心理師カリキュラムに必要不可欠な要素であるため、2020 年度中の契約に向けて引き続き取り組んでいく。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

発達障害児者とその家族による NPO 法人アスペ・エルデの会における支援活動や、研究ネットワークを通じた被災地支援を継続し、発達障害の啓発活動や心の健康促進による社会貢献を行う。また、研究活動とも連動して社会福祉政策の推進につなげる。

(計画)

発達障害への理解・支援や心の健康に関しては近年、地域からの支援ニーズが一層高まっており、本務に支障をきたさない範囲で活動を実施する。アスペ・エルデの会を通じた講演・研修依頼や子育て支援プログラム講師、地域における発達障害理解・支援に関する啓発活動を行う。また、厚生労働省の推進事業への調査協力により、将来的な社会福祉政策の改善につながる研究知見の提案に携わる。

○学会活動等

- ・小児精神神経学会企画委員 (2019 年 10 月～現在に至る)

○地域連携・社会貢献等

- ・田原市「ペアレント・プログラム」支援事業講師 2019 年 5 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
- ・一宮市中央子育て支援センター アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2019 年 12 月 20 日・2020 年 1 月 24 日・3 月 6 日 (3 回)
- ・碧南市役所 アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2019 年 10 月 28 日・12 月 5 日 (2 回)
- ・安城市子育て支援センター アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2019 年 11 月 15 日 (1 回：メール・電話相談)
- ・大垣市中川ふれあいセンター アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム講師 2019 年 10 月 28 日～12 月 23 日 (事前研修 1 回、プログラム実施 6 回)

- ・アスペ・エルデの会西三河支部 支部セミナー講師 2019年9月22日
- ・福島県双葉郡広野小学校 心の健康相談心理士 2019年9月3日
- ・福島県田村郡富岡第一・第二小中学校（三春校） 心の健康相談心理士 2019年9月2日
- ・福島県双葉郡広野中学校 心の健康相談心理士 2019年8月29日
- ・アスペ・エルデの会 日間賀島合宿きょうだいプログラム・ディレクター 2019年8月16～20日
- ・田原市立神戸小学校教員研修講師 2019年1月31日
- ・田原市立田原中部小学校教員研修講師 2019年1月24日
- ・一宮市中央子育て支援センター アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2018年12月25日・2019年1月28日（2回）
- ・碧南市役所・福祉センター アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2018年11月27日・2018年12月18日（2回）
- ・田原市立田原東部小学校教員研修講師 2018年11月26日
- ・田原市立福江小学校教員研修講師 2019年11月19日
- ・一宮市いずみ学園 アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2018年10月16日・11月13日・12月11日（3回）
- ・海津市社会福祉課 アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム・スーパーバイザー 2018年9月26日～12月6日（5回）
- ・安城市子育て支援センター アスペ・エルデの会ペアレント・プログラム講師 2018年8月30日～年11月22日（7回）
- ・アスペ・エルデの会西三河支部星の子倶楽部 セミナー講師 2018年9月29日
- ・福島県浪江町立浪江中学校 心の健康相談心理士 2018年9月4日
- ・福島県富岡小中学校 心の健康相談心理士 2018年8月29日
- ・アスペ・エルデの会 日間賀島合宿きょうだいプログラム・ディレクター 2018年8月16～20日
- ・アスペ・エルデの会 西三河支部ディレクター 2016年4月1日～現在

○自己評価

昨年度からの地域と連携した支援活動や被災地支援を継続するとともに、新しい自治体からの要請への対応を行った。発達障害研究に関連した活動も多く、臨床による地域貢献と研究活動の両面で成果が得られた。心の健康や発達支援は今後も一層ニーズが高まっていく分野であることから、地域貢献を継続しながらも、専門家個人による活動で終わらず、いかに地域の行政や支援者らの活動の促進につなげていけるかという地域支援への実装を今後の目標としていくことも望まれる。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- ・厚生労働省科学研究補助金に応募した課題が採択され、分担研究者として発達障害の理解・支援に関する支援者を養成するための標準的な研修プログラム開発に取り組んでいる。
- ・発達障害や心理的支援に関する研究ネットワークを活用し、海外における先進的な支援技法を見学できる国内の研修に参加した。
- ・弘前大学等、各地域に根ざした発達障害の早期把握・支援活動との連携を進めた。
- ・子育て支援プログラムの全国普及に関連して、愛知県A市子育て支援課との連携から保育園において保育士による実施バージョンの開発などを進行中である。

VI 総括

2019年度の教学活動においては、教育活動における公認心理師カリキュラム対応と研究活動における厚労科研等の外部資金獲得による研究活動が特筆すべき成果となった。

公認心理師カリキュラム対応では新規2科目の担当とともに、非常勤講師の確保や新規科目と既存科目のバージョンアップへの対応など、今後も業務が増加していくことは予想される。また、研究活動では、年々ニーズの高まる発達障害理解と支援を中核テーマに、地域行政と連携した幼児期の子育て支援や小中学校における教員研修の実施、厚労科研による発達障害支援者研修の開発など、地域と連携した支援とともに将来的な福祉政策にもつながる活動に取り組んだ。これらの活動は、国民への心身の健康促進が要請される公認心理師カリキュラムの授業にも資するものと考えられる。すなわち、研究・教育を連動させることにより、公認心理師を目指す学生の教育はもちろん、将来の社会を担う人材養成としての学生教育にも貢献することが期待される。各種演習における学生指導においても、可能な限り各学生の特徴を踏まえた強みの育成を基本に取り組み、学生個々の成長や学生同士の協力の促進など、一定の成果がみられた。以上のことから、教員の立場として「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事うるの職分なり」を基にした学生教育と、教員個人のクレド「未来の社会づくりにつながる取り組みを行う」を基にした教育・研究活動は、概ね達成できたものと評価する。

一方で、ニーズの高まりとともに業務量の増加も著しく、一つ一つを深めることが不十分であったことが大きな反省点である。具体的には、新規科目の内容に関する学生の反応などへの対応や、多岐にわたる研究活動の論文などによる成果発表などは、活動量と比較すると少なくなってしまった。次年度も引き続き教育・研究・社会貢献の活動の継続と増加が予測されるものの、それらの活動を振り返り、成果として形にしていく取り組みにも力を注いでいきたい。

以 上